

# (1) 西土佐小学校

学 校 長 島田 敏和  
校内研究代表者 谷口 由紀

## 1. 研究主題

西土佐小学校研究主題 「自ら学び、かかわり合い、自分の思いを表現できる児童の育成」  
～生活や社会とのかかわりを意識した算数科の授業を通して～

西土佐小中共通テーマ「レッツ チャレンジ! 西土佐っ子」  
～西土佐を愛し 自分の思いをもって行動する 子どもの育成～

## 2. 主題設定の理由

児童は素直で、友達とも穏やかに接し、互いに声をかけ合って活動する姿が見られる。児童会や6年生を中心に、主体的に動ける児童も増えてきた。自己肯定感や自分の思いを表現する力についても徐々に上がってきているが、まだまだ伸びしろがある。

学力面について、児童は教師側から提示された課題について真面目に取り組むことができる。また、児童自ら学びに向かう姿勢も主体的になってきた。

昨年度、児童の学力、主体性の向上を図ることを目指して授業改善に取り組んできた。主に、授業で目指す児童の姿(資質・能力)を意識しながら、児童の興味・関心に結びつくような日常や社会事象とのかかわりのある算数科の授業を創造してきた。全国学力・学習状況調査、高知県学力状況調査などの結果から、どちらも全国や県平均の数値を上回る結果で、学力の向上が見られた。また、にしとさっ子アンケート「算数の授業が分かる」「算数の授業は生活に生かせる」の項目の数値が上がったことにより、児童の学習意欲が高まったと考えられるが、「自分の思いや考えを発表できる」の項目については年々向上しているけれども目標にはまだ達しておらず、課題が残る。

以上から、今年度も算数科を中心とし、児童が目的意識を持ち、数学的な「見方・考え方」を働かせながら、根拠をもとに自分の思いや考えを数学的に表現できる授業作りに取り組み、児童の学力、主体性の向上を図ることを目指し、本研究主題を設定した。

## 3. 研究の進め方と方法

- ・ 全体研究日…第2、3、4水曜日(14:40(14:30)～) 第1水曜日:職員会
- ・ 3部会…「確かな学力部会」「豊かな心部会」「健やかな体部会」随時
- ・ 学年部会…随時  
【低学年部:新玉、津野、尾崎、島田、柴、藤本(植木)】  
【高学年部:谷口、山本、依光、吉本、岡村】
- ・ 校内支援会…毎月SC来校時(16:10～16:40)
- ・ 教科部会…随時
- ・ チーム会…月1回火・木曜日

## 4. 研究内容

### ①研究内容

| 確かな学力部会                                      | 豊かな心部会  | 健やか体部会                       |
|--|---|------------------------------|
| ○授業力向上<br>○基礎学力の定着<br>○家庭学習の推進<br>○ICTの効果的活用 | ○道徳、人権教育、特別活動の推進<br>○いじめ・不登校の未然防止<br>○生活指導の充実<br>○キャリア教育の推進<br>○読書活動の推進 | ○体力づくり<br>○生活習慣の確立<br>○食育の推進 |

※保小中交流研修会とのリンク

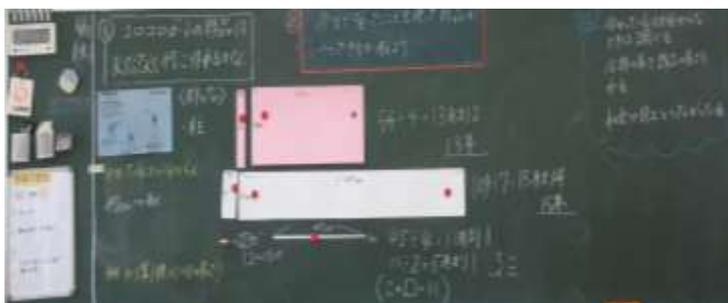
|          |  |
|----------|--|
| 全校研(指導案) | <b>【算数】</b><br>6月18日【4年生】<br>10月22日【5年生(初任者研修)】<br>11月26日【1年生】保育所職員参観<br><b>【年次研修教科(国語)】</b><br>2学期【2年生】 |
|          | <b>【道徳】</b><br>9月17日【3年生】(講師招聘)<br>11月20日【2年生,6年生】※幡道研公開授業   |
| 公開授業     | 6月【1年生(保育所の先生が訪問)】<br>2月頃【6年生(保小中合同研公開)】   |

## ②具体的な取組

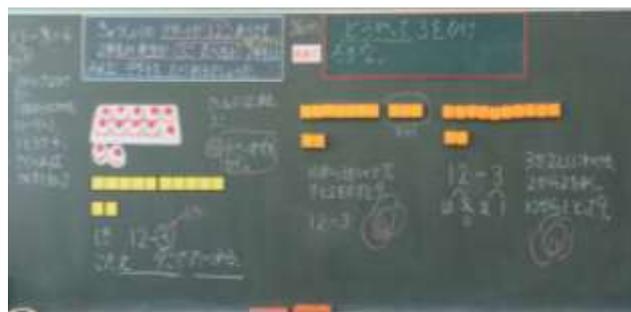
### 【算数科の研究について】

昨年度の課題として上がってきたことから、導入時の興味付けが大事だと考え、「問題」と「問い」について、全員の考えを出し合いながら、意識の統一を図った。「問題」とは「児童が解決したくなる生活の中の事象や数学的場面」、「問い」とは「既習事項や予想と比べて、児童が「え?」「どうして?」「なぜ?」が浮かび、解決したくなること」と定義し、研究を進めた。

6月18日、4年生「わり算の筆算(1)」では、他教科の図工科で行っている「コロコロガール」と関連した問題場面を設定した。自分たちが作りたいトンネルや柱などを廃材から無駄なくいくつ作れるかを、わり算を使って解決していく授業展開を研究授業で行った。児童が好きな図工科と教科関連させ、興味関心を引き立てる問題設定に挑戦した。



11月26日、1年「くり下がりのある引き算」では、12-3の計算を、バラから引いたのか、10のまとまりから引いたのか、ロイロノートのブロックのイラストにそれぞれ考えを書き込んでいった。個々で考えた後、全員で共有し、被減数をどこから引いたのか、黒板のブロックと対応させながら2つの計算の仕方を考えていった。問題場面は、給食のデザートが2年生の先生が食べてしまったが、残ったデザートは2年生が全員食べることができるのかという場面設定だった。子どもたちが好きなデザートや2年生も食べられるのかということが興味関心につながり、意欲的に授業に参加できていた。さらに、全体共有では、ロイロノートのブロックのイラストと黒板に貼っているブロックとを対応させながら児童に発表させた。



また、1年生の授業参観と事後研修には、保育所の3名の先生方に参加してもらい、1年生の算数科の授業を見学することで保育活動の見直しができたと意見もいただいた。

教育DXの効果的な活用の提案授業として、2年次研修と兼ねて2年生国語「名前を見てちょうだい」を行った。本文を読み、児童から登場人物の行動で気になったところの文を聞き取り、ロイロノートの付箋機能で即座にワークシートを作り、児童に配布した。そのシートの文をもとに、児童は気になった行動から登場人物の気持ちを個人で考えていった。それぞれのシートを参照できるようにしたことで、自分の考えと友達の考えを比較することができ、気持ちを考えづらい児童は、友達の考えを参照しながら、自分なりの考え



を書くことができた。

#### 【保・小・中・高・地域連携教育について】

昨年度まで、「知」「徳」「体」の3部会で構成していたものを、今年度は「遊び・生活・理科」「総合的な学習の時間」「連携カリキュラム」の部会に変更して取り組んでいった。令和7年度の方向性として、3校所の取組をもっと知り、「出会い直し」「新しいつながり」「発展」などの視点を持ち、5つの非認知能力の育成に向けたカリキュラムの見直しを図っていくことと、保育所の「遊び」と小学校の「生活・理科」、小中学校の「総合的な学習の時間」を中心に据え、「学びの連続性」を意識して取り組んだ。

保小中交流研修会は年間4回行っている。その中でも、7月24日に行われた第2回保小中交流研修会では、午前中に小中の全職員が保育所の運動とプールの活動を参観し、午後に保育参観の感想を共有した後「遊び・生活・理科」と「総合的な学習の時間・連携カリキュラム」の2つの部会に別れて、にしとさ連携カリキュラムの具体的な取組の話し合いをした。しまちるの保小中連携カリキュラムを土台にして、より具体的な取組を話し合い、完成させていった。また、遊び・生活・理科部会では、理科の領域ごとに遊びと生活科がどのような関連があるのか表にまとめていった。

### 保小中交流研修会

- 5/14 中学校授業参観、各校所の現状報告、全体での取組の方向性確認、3部会
- 7/24 保育参観、西土佐地域連携におけるカリキュラムの具体的な取組の作成、「遊び・生活・理科」「総合的な学習の時間」のつながりについての協議
- 12/17 各校所での5つの非認知能力の育成に向けた取組の報告、3部会
- 2/18 小学校授業参観、本年度の総括及び次年度に向けて

## 5. 今年度の成果と課題

### 各種アンケート結果

- ・全国学力・学習調査〔6年〕（目標：全国値+4p以上）  
国語：73（+6.2p） 算数：76（+18p） 理科：79（+21.9）
- ・高知県学力状況調査〔4. 5年〕（目標：県平均+4p以上）  
4年国語：75.5（+7.6）算数：72.9（+5.9）  
5年国語：72.6（+2.5）算数：65.9（+1.6）理科：67.4（+2.4）

### 〔にしとさっ子アンケート〕

- ・「算数の授業がよくわかる」92.9%（目標：90%以上）
- ・「算数の授業は生活に活かせる」100%（目標：90%以上）
- ・「自分の思いや考えを発表できる」89.3%（目標：80%以上）
- ・「自分には良いところがある」92.9%（目標：85%以上）
- ・「自分の住んでいる西土佐が好き」100%（目標：90%以上）
- ・「地域や社会をよくするために何をしたらいいか考える」96.4%（目標：90%以上）

### 〔学校評価アンケート〕

- ・「保・小・中・地域との連携を図り教育効果をあげている（教職員）」100%（肯定的評価 90%以上）
- ・「学校の教育活動は満足できる状態（学校運営協議会委員）」100%（肯定的評価 100%）

## ①成果

### 算数科研究

- 授業改善プランの重点取組について、年度当初に全職員で意思統一し、授業改善に向けて各学年が教材研究を行った結果が、「算数の授業はよくわかる」の肯定的評価につながった。
- 全担任が板書に「見方・考え方」を掲載することで、1～6年の「見方・考え方」のつながりを意識した教材研究を行うことができた。

### 保・小・中・高・地域との連携

- 今年度、部会を思い切って変えたことにより、保育所、小学校、中学校の活動のつながりがより明確に見えたことで、授業に活かしやすく、全校所の流れを意識して単元を構成することができた。
- 全教職員で、しまちるをもとにした連携カリキュラムを見直し作成することで、可視化することができ、次年度にも引き継ぎしやすくなった。

## ②課題

### 算数科研究

- 市販テストや学力調査の結果など、他教科と比べて低いので、次年度も算数科を中心に研究を進め、点数にもこだわって授業を行っていく。
- 授業の終盤、まとめを行うときに目的や問いを忘れやすいので、必ず何のために学習を進めているのか、要所要所でめあてや問いに戻る。
- 毎年「自分の思いや考えを発表できる」は年々数値が上がってきているが、まだまだ課題である。根拠をもとに「自分の思いや考えを発表できる」授業づくりを更に進めていく。

### 保・小・中・高・地域連携

- 部会編成を今年度行ったので、実践・検証・修正しながら定着させていく。
- 5つの非認知能力を意識し、15歳の出口を見据えて、実践していく。